

「8月8日 笑いの日」に子どもたちが鹿児島県住みます芸人とコラボ

8月8日、文化センターにて鹿児島住みます芸人のキカンタレとパイナップルつばさが高山小学校の子どもたちと交流しました。今回は、「お笑い寄席 in 肝付町」と題して、子どもたちが実際に漫才をしたり、大喜利に挑戦するなどの体験を行いました。

子どもたちは、まず笑いの大切さを学び、どうやったら皆を笑わせる事ができるか、プロの芸人さんからアドバイスを貰いながら自分たちのオリジナルのネタを作っていました。最初は緊張していた子どもたちも、芸人さんたちと会話をしていると、次第に笑顔になり、大喜利では皆が積極的に発表をし、プロの芸人さんを驚かせる回答も出るなど会場は笑顔に包まれました。

参加した高山小学校5年生の日高凛人君は、「今日はすごく楽しかったです。ここで学んだことを、学校でもやってもっと皆を笑わせたいです。」と話してくれました。



岸良のナゴシドン神舞奉納

ナゴシドンは、岸良地区にある平田神社と岸良海岸で毎年8月14日に行われる神事です。今年もナゴシドンのつなぎ手実行委員会のもと、神舞の舞手や運営ボランティアを募集し、参加者は町内の小中学生と一緒に本番に向けて練習に励みました。

当日は平田神社での神事後、舞手たちが岸良浜へと移動。

浦安の舞では甲斐紗也加さんと甲斐なるみさん、山の神舞は松永太心君、薙刀舞を榮倉孝行さんが奉納しました。その後、7名による十二人剣舞、無病息災を願っての茅の縄くぐりがありました。

十二人剣舞を踊った安田空正君は、「練習は岸良小学校の体育館でやっていました。去年も踊りましたが、本番の砂浜は踊りにくく大変なところもありました。でも、去年より舞手が増えて心強かったです。また来年もやりたいです。」と話してくれました。

